



夢

探検

白瀬中尉が遺した軌跡

「白瀬中尉をしのぶ集い」「100周年記念講演会」、
今後の100周年記念事業に係るイベント等の紹介

『白瀬中尉をしのぶ集い講演会』



坂中伸也氏の講演

1月28日、金浦勤労青少年ホームで日本南極探検家の白瀬中尉の功績を讃える「第43回白瀬中尉をしのぶ集い」が行われました。
毎年恒例の雪中行進は、残念ながら強い雨風のた

めに中止となりました。
講演会が始まる前に、「白瀬中尉に学ぶ」をテーマにした作文コンクールで最優秀賞を受賞した金浦小学校5年の渡辺菜々さんと金浦中学校2年の板垣幸美さんが、それぞれ作文発表を行いました。

講演会では、第46次日本南極地域観測越冬隊として参加した坂中伸也氏を講師に迎え、南極大陸の紹介や自分自身が南極で行っていた仕事、白瀬中尉が南極に向けて出発した当時の時代背景について語り、参加者たちは真剣に聞き入っている様子でした。

『100周年記念講演会』

1月29日、仁賀保青少年ホームを会場に、白瀬100周年記念特別講演会が行われました。講演に先立ち、映画「南極料理人」が上映され、集まった約350人の来場者は、しばし南極大陸にある「ドームふじ基地」の世界を味わいました。その後、映画の原作者であり、南極観測隊の調理担当であった西村淳氏による講演が行われ、実際の南極生活の体験談が写真とともに披露されました。中でも映画の裏話や、南極という特殊環境における料理の秘密、また家庭でもできる料理のコツといったお話しに、会場はしばしば笑いに包まれました。



西村淳氏の講演

また、西村氏は自身の体験から、白瀬隊が極めて小さな船で南極探検を果たしたことに感心され、参加者は改めて白瀬の偉大な功績に触れました。

100周年記念イベントを

秋田県内各地で開催します！

本市出身の白瀬中尉を隊長とする白瀬日本南極探検隊が、明治43年に南極に向けて東京芝浦埠頭を出発してから、こしがちようど100年を迎える年であり、さらに明治45年に南緯80度5分の地点に到達し、一帯を「大和雪原」とした日から平成24年が100周年にあたります。

そのことを記念し、昨年、白瀬日本南極探検隊100周年記念プロジェクト実行委員会を立ち上げ、3カ年の記念事業を計画し、その第1弾として「南極・白瀬展」等のイベントが開催されました。

ことは、白瀬日本南極探検隊100周年記念事業の本開催となります。

今後開催するイベントをご紹介します。（下段を参照）

現段階ではあくまでも予定ですが、各イベントの詳細が決定しだい、広報にかほやチラシなどでお知らせします。

白瀬日本南極探検隊100周年記念プロジェクト 「マスコットキャラクター」 「キャッチフレーズ」募集中！

白瀬日本南極探検隊100周年記念プロジェクトでは、マスコットキャラクターとキャッチフレーズを募集しています。

白瀬日本南極探検隊

100周年記念事業推進事務局

から今後の抱負をいただきました

事務局から今後の抱負について、
白瀬日本南極探検隊100周年記念事業推進事務局は、県職員、にかほ市職員それぞれ2名ずつ（兼務）と、5月に採用された専従職員2名で構成され、実行委員会決定された事業の開催やPR活動を積極的に行っています。秋田の誇るべき偉人である白瀬中尉をこの機会にぜひ改めて知っていただき、にかほ市の皆さんをはじめ、県民の皆さんがふるさと秋田に誇りと自信を持っていただけるよう、さまざまなイベントを展開していきます。

今年のイベント予定

県内巡回展「白瀬・南極展」
—白瀬日本南極探検隊—
100周年記念—

日時 2月13日（出）14日（日）
午前10時～午後5時

会場 秋田ふるさと村（横手市）

内容 ▽子ども水実験教室▽②映画「南極料理人」の上映会▽③沖田監督トークショーほか

日時 2月20日（出）21日（日）
午前9時30分～午後5時

会場 大館市中央公民館

内容 ▽南極との電話交信▽南極実験教室▽白瀬南極探検隊にまつわる貴重な資料の展示

日時 3月13日（出）14日（日）
午前9時30分～午後5時

会場 秋田拠点センター「アルヴェ」

内容 ▽劇団わらび座ミニミュージカル▽「やまとゆきはら」原画展▽関屋敏隆氏（絵本作家）によるギャラリートーク▽子ども水実験教室

その他にもこんな

イベントを予定しています。

・南極観測船新「しらせ」秋田寄港記念イベント（9月10日～13日）
・開南丸出航100周年記念イベント等



白瀬中尉（1861～1946）

文久元年（1861）6月13日、にかほ市金浦地域の浄蓮寺の長男として誕生。
少年のころに、①お湯を飲まない②お茶を飲まない③酒を飲まない④タバコを吸わない⑤寒中でも火にあたらないの「五訓」を自分に課し、北極探検を誓いました。その後、陸軍に入隊し、北極探検を志しましたが、明治42年（1909）にアメリカの探検家ピアリーの北極点到達を知り、目標を南極に変更しました。

白瀬中尉は、さまざまな障害を乗り越え、また、全国の義捐金などに支えられて木造船「開南丸（204トン）」を入手し、南極へと出発しました。
明治45年（1912）1月28日、南緯80度05分、西経156度37分の地点に日章旗を立て、付近一帯を「大和雪原」と命名。一人の死傷者も出さずに全員無事に帰国しました。残念ながら南極点への到達は叶いませんでしたが、小さな木造船で夢を追求めた勇気と探検心は世界中から称賛されました。